

こどもの文学？ おとなの文学？

～ロシアの児童文学作家グリゴリー・オステルを迎えて～

グリゴリー・オステル：1947年旧ソ連オデッサ（現ウクライナ）生まれ。ゴリキー文学大学卒業。ソ連時代はアニメのシナリオなどを数多く手がけた。ペレストロイカ以後、風刺精神にあふれ、それまでの「良い子を描く児童文学」という常識をくつがえした『悪い子のすすめ』で一躍有名になった。そのほかの作品に、算数の文章問題をもじった『問題集』、大人の世界を子供の眼で面白おかしく描いた『パパママ研究』、自在な筋の発展から「ロシア児童文学初のハイパーテキスト」とも言われる長編『いろいろのはなし』など。2002年ロシア連邦国家賞受賞、ロシア連邦功労芸術家。2012年にはすぐれた児童文学作家に与えられるチュコフスキー賞を受賞。現代ロシアでもっとも人気のある児童文学作家の一人である。

オステル公式ホームページ（日本語）

<http://tousen.co.jp/oster>（2013年12月開設予定）



ひこ・田中（ひこ・たなか）：児童文学作家・批評家、『児童文学書評』主宰。『お引越し』で椋鳩十児童文学賞。『ごめん』で産経児童出版文化賞JR賞受賞。絵本『ひつきむし』、幼年童話『レッツ』シリーズ、評論書『大人のための児童文学講座』なども出している。読売新聞、朝日小学生新聞他で書評を担当。

青山 南（あおやま みなみ）：英米文学研究・翻訳家、エッセイスト、早稲田大学文化構想学部教授。アメリカ小説の翻訳と紹介を長年つづけてくるいっぽうで、レイン・スミス等、英米の絵本の翻訳を多数手がけてきた。「にげる！にげる？」の翻訳で産経児童出版文化賞を受賞。



沼野 充義（ぬまの みつよし）：ロシア東欧文学研究・翻訳家、東京大学大学院人文社会系研究科教授。文芸評論も手広く手がけている。2002年『徹夜の塊 亡命文学論』でサントリー学芸賞受賞。2003年『ユートピア文学論 徹夜の塊』で読売文学賞受賞。

毛利 公美（もうり くみ）：ロシア文学研究・翻訳者、一橋大学ほか非常勤講師。ナボコフ論で博士号取得。共訳書にナボコフ『ナボコフ全短編』、アクーニン『アレクス将軍暗殺事件』など。最近はおっぱらオステルの作品の翻訳紹介ばかりしている。

関連イベント

ロシア・アニメーションの魅力

～シナリオライターとしてのオステル～

日時 2013年12月24日（火） 19:00～21:00

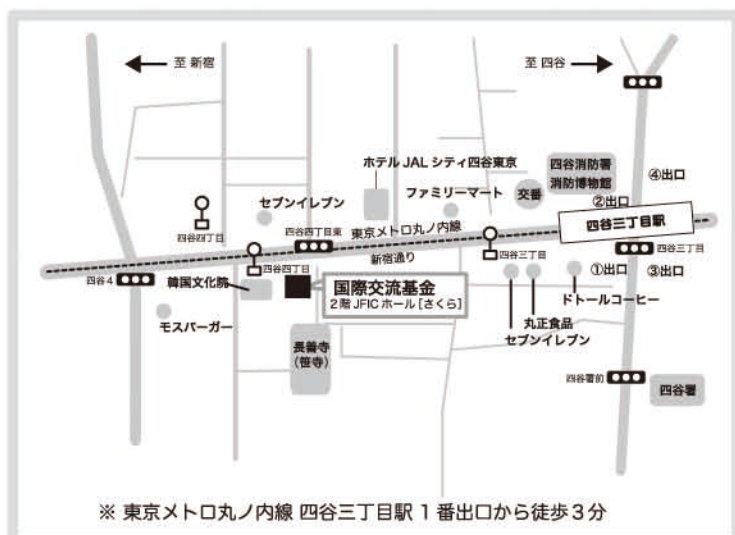
会場 神戸映画資料館

★ スペシャルゲスト グリゴリー・オステル

問い合わせ先

国際交流基金 tel: 03-5369-6071 (担当: 高口)

神戸大学国際文化学研究所 tel: 078-803-7441 (楢岡求美)



※ 東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅1番出口から徒歩3分